

「相中相高百年史」より
(昭和初期の相馬中学校 7)

7 創立 35 周年記念並びに新築講堂落成記念行事

1933 (昭 8) 年 3 月 27 日、日本は国際連盟を脱退、国際的孤立の中で国家の存立を賭け、戦争か平和かの選択に戦き迷いながらも、国体明徴を旗じるしに高度国防国家の建設を目指し、大陸進出への道を突き進もうとしていた。この年、本校は創立 35 周年を迎えたのである。

1898 (明 31) 年 5 月 7 日の開校以来、この年までに 2,355 人の卒業生を出し、その教育実績は県下に名高く、県下中学校の雄として誇り高いものがあった。非常の時、国運拡張の気漲る中で、教育立国の誓も新たに、師弟官民挙げての記念式典であった。長年待望の大講堂が完成し、その落成式を併せての記念行事であったが、その模様を『学友会雑誌』第 31 号の「祝賀会記事」が詳しく伝えている。戦前期教育の一つのしめくくりを記録したものとして、「記事」の中から、在校生総代の「祝辞」と「本校創立 35 周年並講堂新築落成式情況」(一部)を転載する。

(ア) 生徒総代「祝辞」

本日茲ニ我ガ福島県立相馬中学校創立第三十五周年記念式並ニ新築講堂落成式ヲ挙行セラルルニ当リ、我等一同其ノ盛典ニ列スルヲ得タルハ誠ニ欣快ノ極ミナラズヤ。

顧ミレバ本校ハ明治三十一年ノ創立ニカカリ、爾来益々隆盛ヲ来シ、今ヤ卒業生ヲ出スコト三一回二千有余名ヲ算スルニ至レリ。而モ卒業生諸兄ハ忠良ナル帝国臣民トシテ夫々社会ニ活躍シ各々其ノ天分ヲ發揮シ本領ヲ揮ヒ大ニ母校ノ名声ヲ博シタリ。

我等在校生亦幸ニシテカカル光輝アル本校ニ在学シ、日々授業ニ親ミ得ル幸福ノ甚大ナルヲ思ヒ、孜々トシテ学業ニ務メ德行ヲ修メ以テ君国ノ為ニ尽スコト有ラントス。

由来本校ハ質実剛健ノ精神ヲ以テ本領トナセルガ故ニ我等ハ日々先輩諸兄ノ努力ノ声ヲ耳ニシ三十有五年ノ長キニ亘レル赫々タル歴史ニ照サレツツ校長先生始メ諸先生ノ懇篤ナル御指導ノ下ニ且ニ道ヲ修メタニ業ヲ習ヒ以テ他日ノ大成ヲ期セントハスルナリ。

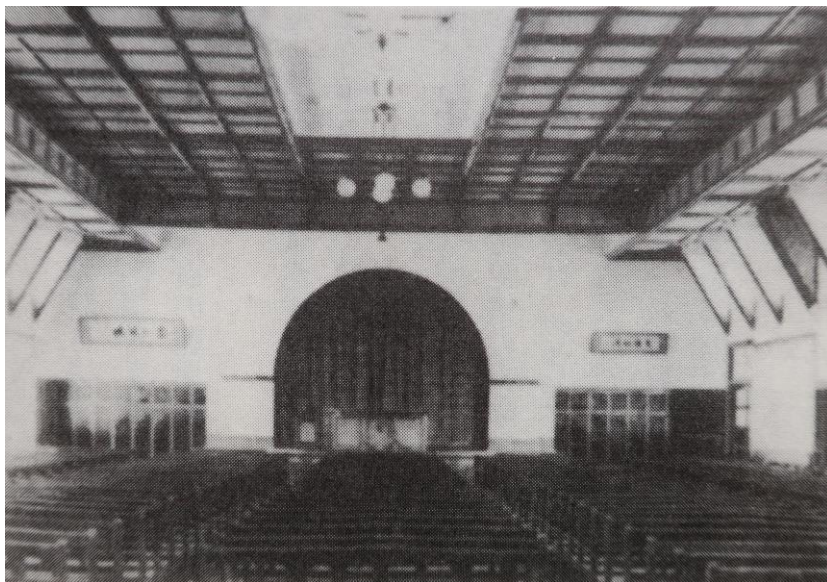
然レドモ現時我ガ帝国ハ内外共ニ多事多難ノ時ニ遭遇セリ。即チ内世界的恐慌ニ苦シミ外滿蒙問題ニ繼グニ連盟離脱ノ止ム無キニ至リ、更ニ思想上ニ於テハ外来思想ニ脅カサレ又輕佻詭激ノ風漸ク生ゼントスルニ至レリ。

今ヤ母校三十五周年ノ春秋ヲ送り迎へテ、大講堂ノ新ニ成レルモノ先輩卒業生及一般地方有志各位ノ熱誠ナル厚情ノ賜タルヲ思フトキ、我等ハ大ニ将来ノ第二国民タル重大責任ヲ自覚シ師長ノ教訓ヲ遵守シ先人苦心ノ跡ヲ顧ミ以テ心身ヲ鍛鍊シ質実剛健ノ気風ヲ養ヒ中堅国民トシテノ大道ヲ邁進シ日本男児ノ本分ヲ發揮セザルベカラズ。

コレ即チ聊カナリトモ母校ノ歴史ニ一段ノ光ヲ添フル所以ニシテ皇国ノ発展ニ貢献スベキ所以ナリト信ズ。茲ニ一同ニ代リテ祝辞ヲ述ブ。



落成当初の講堂外観



入り口より見た講堂内部正面

(イ)「本校創立 35 周年並講堂新築落成式情況」(一部)

高野 藤 三^(※2)

十二月十六日午前六時轟然たる一発の花火の合図と共に、吾人が久しく翹望して居った式日はいよいよ来たのである。而も此の日は初冬とは名のみ、風穏やかにして日ざし暖かに実に幸多き日であった。本校舎は三十五年の跡を喜び語らうが如く、講堂は新装を凝し葺も高く聳えて笑ふが如くであった。見よ門前には緑門美しく千代を祝ひ各廊下や校庭、祝宴場等は各国旗、紅白テープを以て装飾し用意遺漏なく、茲に職員生徒一同早朝より歓喜に充てる輝かしき心を以て来客を待ち迎えたのである。

やがて午前八時半より新講堂に於て新殿祭を行ひ、午前十時を報ずるや左の予定によって記念式落成式を挙行し、かくて滞りなく当日の式を済し得たのである。

当日、県知事閣下は県会閉会の為に、高井視学官殿代理として来校せられ、知事告示を行った。来賓祝辞は、代議士総代本校出身の小島代議士、県会議員総代、男子中等学校長総代、女子中等学校長総代、相馬郡町村長総代、相馬郡小学校長総代の6名、卒業生総代祝辞は志賀清身^(※3)であった。

其他各中等学校長、郡内町村長、小学校長、町内有志卒業生、父兄各位等約八百の来会を得、職員生徒参列の上、木の香ただよう新講堂内に於て厳に記念式落成式を挙行し、正午過ぎ二十分に式は終了した。(以下略……………)

○ 記念式落成式次第 (午前十時より)

- | | |
|------------------|------------------|
| 一、生徒、職員入場 | 十一、来賓祝辞 |
| 二、来賓入場 | 十二、卒業生総代祝辞 |
| 三、知事臨場 | 十三、生徒総代祝辞 (生徒起立) |
| 四、敬礼 (楽器合図) | 十四、感謝状及記念品贈呈 |
| 五、国歌合唱 (二回) | 十五、勤続者表彰 |
| 六、勅語奉読 | 十六、祝歌斉唱 |
| 七、学校長式辞 (生徒職員起立) | 十七、校歌斉唱 |
| 八、講堂建設工事報告 | 十八、敬礼 |
| 九、講堂建設会計報告 | 十九、知事退場 |
| 十、知事告示 (一同起立) | 二十、来賓退場 |
| | 二一、職員、生徒退場 |

十二月十七日 午前十時より記念講演会を開催した。

- ・「直近の極東情勢」 外務省情報部事務官 佐藤忠雄氏
- ・「兵力以外の国防方策」 歩兵第三旅団長陸軍少将 長谷部照愷閣下

以上は国民の齎しく衷心より聞かんと欲する所、而も其の説き去り説き来る所、日本を中心としての国際関係、或はロシアの内情等手に取る如く、或は国民の覚悟を求め或は其の奮起を促し、八百の聴衆亦酔へるが如く感銘深く謹聴し頗る盛会を極めた。

本日は一般人に展覧会観覧を許した。午後四時より職員生徒提灯行列挙行為グラウンドに集合、四時四十分出発楽しく町内を一巡して祝意を表した。

十二月十八日 本日は朝より小学校団体の展覧会観覧が多かった。午前九時よりは二時間置きに講堂に於て影山先生の液體空気の実験が行はれた。実に珍しい頗る有益の実験であった。展覧会は、物化部、地歴博物部、図書部、習字部時局関係部とに分れ、物理化学の実験、地歴博物の説明、時局部の解説等皆生徒が其の任に当り一般観覧者に対し頗る感興と満足とを与へた。中にも熊川少尉の遺品其他については皆敬虔追慕の情を起された。

(※1) 相中第32回卒、石神出身、東大 (法)

(※2) 相中第1回卒、中村出身、相中・相高教諭 (明治39.4.12~昭和26.3.31)

(※3) 相中第1回卒、日立木出身、陸士